

## 令和6年度鶴見区区政会議 第1回地域保健福祉部会 会議要旨

1 日時 令和6年6月27日(木) 午後6時30分から午後7時27分

2 場所 鶴見区役所 3階 302会議室

3 出席者

(委員)

南口部会長、桑名副部会長、有村委員、金児委員、西山(靖)委員、橋本委員\*、原田委員、万谷委員

(※はWeb参加)

(鶴見区役所)

木村政策推進担当課長、広瀬保健福祉課長、貴田保健担当課長、大川生活支援担当課長、仲田総務課政策推進担当課長代理、秋本市民協働課長代理、橋本保健福祉課福祉担当課長代理、丹葉保健福祉課地域福祉担当課長代理兼市民協働課長代理、菅野保健副主幹、徳市民協働課担当係長、鈴木保健福祉課担当係長、當麻保健福祉課担当係長

4 議題

(1) 令和6年度鶴見区区政会議の進め方について

(2) 令和5年度鶴見区運営方針自己評価について

5 議事要旨

(1) 令和6年度鶴見区区政会議の進め方について

事務局から、「令和6年度鶴見区区政会議スケジュール(案)」(資料1)に関する説明を行い、案のとおり了承された。

(2) 令和5年度鶴見区運営方針自己評価について

事務局から、「令和5年度鶴見区運営方針 独自様式」(資料2)に関する説明を行い、委員からの意見等及び事務局からの回答の概要は次のとおり。

- ・ 成果指標(単年度)の「つなげ隊が対応した地域住民等からの相談件数」について、令和5年度実績では4,365件とのことだが、地域特性等もあることから、区内12地域別の相談件数を別途提供いただきたい。
- ・ まちづくりセンターによる支援の必要性が薄くなっている団体が増えてきているとの自己評価については、同感である。まちづくりセンターに相談しても、市民協働課に確認等を行うため、時間を要し、直接、市民協働課に相談したほうが早く解決することになる。まちづくりセンターの在り方や業務内容を見直す必要があるのではないか。
- ・ 成果指標(中期)の「日常生活の中で『お元気ですか』や『何かお困りですか?』など住民同士の『声かけ』『見守り』『支え合い』が行われていると感じる」と回答した区民の割合では、令和5年

- 度実績値が 37.8%と低い結果となったが、今後、どのような取組を検討していくのか。
- ⇒ 「あいまち」や「つなげ隊」の周知活動を通じて、困ったときに声をかけやすいといった環境整備に努めていきたいと考えている。
  - ・ 現状の「つなげ隊」や「あいまち」などの取組だけでは当該数値が高まるとは思えない。高齢者などの「声をかけられる側」と 30 代や 40 代などの「声をかける側」が接点を持たない限りは成果指標(中期)の目標を達成することは困難と考えられることから、現状とは異なる角度からの取組を進めていくべきである。
  - ・ 若い方にとっての「支え合う」といった心情をどのようにして感化させていくのかを検討されたい。
  - ・ 認知症の方に対する支援策として、地域による見守り以外にも、区役所として何か施策や取組を行っていく予定はあるのか。
  - ⇒ 地区社会福祉協議会と連携した見守りを行う仕組みはあるが、今後は企業等との連携を強化したうえで、多くの方が生活圏の中で目にしたことが行政側に届くような仕組みを構築していきたい。
  - ・ 認知症の方も含め、困っておられる方をすぐに発見できるような仕組みが出来上がれば、住みやすいいいまちになると思われる。

## 6 会議資料

- (1) 次第
- (2) 令和6年度鶴見区区政会議スケジュール(案)(資料1)
- (3) 令和5年度鶴見区運営方針 独自様式(資料2)
- (4) 令和5年度鶴見区運営方針 共通様式(参考)